

第2回寒河江市学校施設 整備計画説明会

寒河江市教育委員会
学校教育課学校再編整備室

学校施設整備計画について

小中学校

学習・生活の場

学習・文化・スポーツなどの
活動の場

災害発生時：避難所

課題

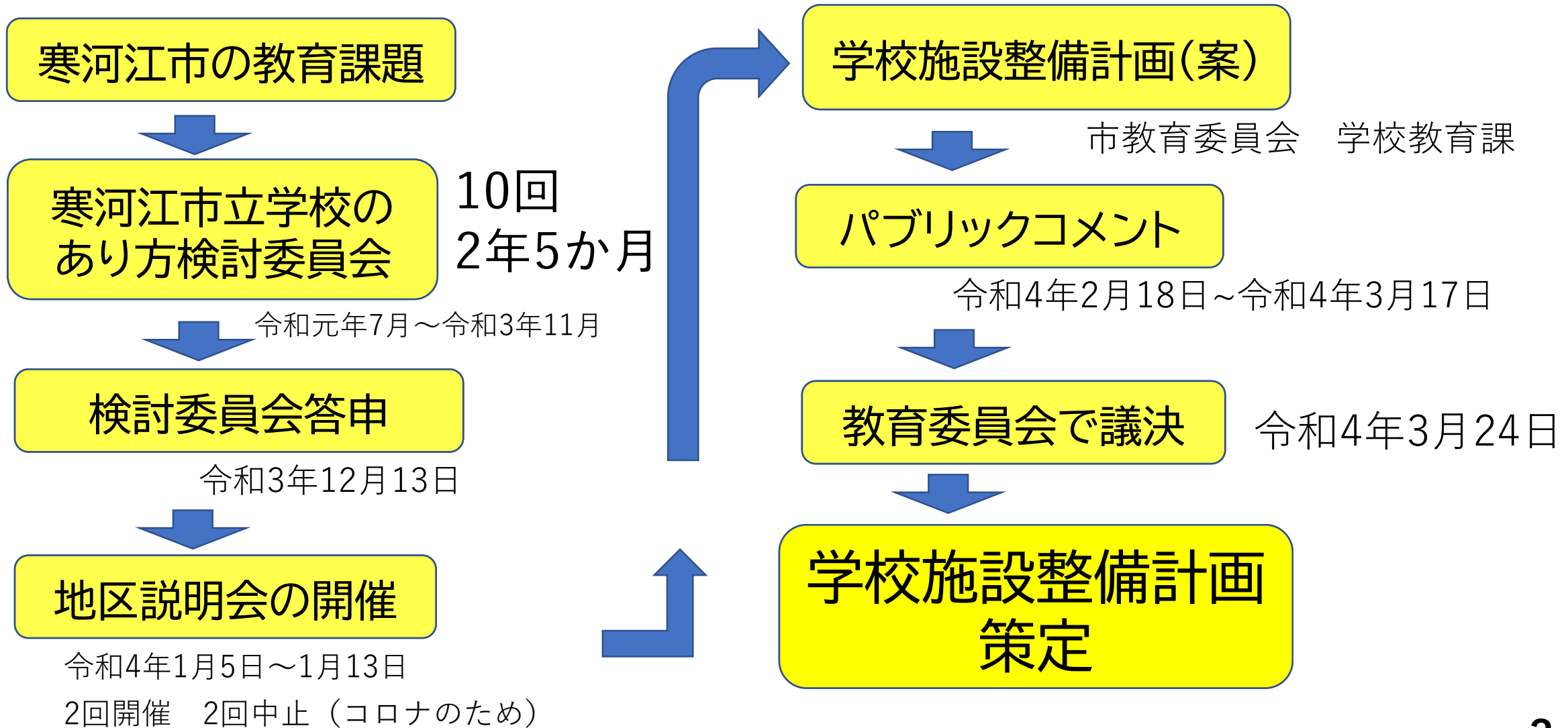
施設の更新時期

少子化による児童
生徒数の減少

計画期間：令和4年度から令和23年度まで

対象施設：小学校9校、中学校3校

学校施設整備計画策定までの流れ



学校施設整備計画 ロードマップ

	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12	令和13	令和14	令和15	令和16	令和17	令和18	令和19	令和20	令和21	令和22	令和23										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041										
寒河江小学校																														
南部小学校	<p><u>ご意見を頂いて検討し、 変更することもあります。</u></p>										<p>新校舎を建設し統合することを検討 ※1</p>																			
寒河江中部小学校																					<p>新校舎を建設し統合することを検討</p>									
柴橋小学校																														
西根小学校																														
三泉小学校																														
高松小学校																														
醍醐小学校																														
白岩小学校																														
陵南中学校																														
陵東中学校	用地選定	用地買収 用地造成	測量設計	建設	<p>新校舎を建設し統合（建設予定地は検討中）</p>																									
陵西中学校																														

統合（西根小学校校舎を活用）新小学校①

測量設計
解体

建設

統合（醍醐小学校校舎を活用）新小学校②

陵東中学校跡地に新校舎を建設し統合

新校舎を建設し統合（建設予定地は検討中）

※1：児童数の動態や社会情勢の変化により、寒河江小学校を陵東中学校跡地の新校舎への統合、南部小学校を寒河江中部小学校と柴橋小学校の統合校へ統合することも検討していく。

説明会等の実施及び計画の周知

- 説明会 計14回開催 399名
- 市報への掲載（8/5号〔説明会まとめ〕、9/20号〔説明会日程〕）
- 小学校統合に関する検討会〔2回〕
（西根・三泉・高松・醍醐・白岩各小学校PTA役員）
- 中学校統合に関する検討会（市内3中学校PTA役員）
- HPの掲載
 - ・ 寒河江市立学校のあり方検討会議事録（10回分）
 - ・ 説明会資料及び説明会での質疑応答
 - ・ 説明動画（約18分）……約927回再生（10/7現在）

説明会等でいただいたご意見について

● 多くのご意見をいただいた点

(1) 市民への周知や説明不足

- ・ 保護者や地域の意見をもっと聞いて計画に反映させるべき

(2) 小・中学校の統廃合と地域の活性化、公共施設の配置の問題

- ・ 学校がなくなると地域が廃れる
- ・ 陵西学区の学校存続

(3) 小学校を2段階で統合する場合に小学校と中学校とで統合が続くことによる子どもや保護者の負担増

- ・ 小6と中2で統合を経験することになる

(4) 中学校の「1校案」に対して「2校案」の検討

- ・ 「1校案」は、生徒数が千人規模で大きすぎる
- ・ 建設予定地、予算は？

説明会等でいただいたご意見について

- ご意見や不安なこと、心配な点

- ① どんな子どもたちを育てたいのか？
- ② 規模が大きくなると「いじめ」や「不登校」の増加が心配。
- ③ 小規模や複式学級によさもある。
- ④ 特別支援学級への対応は適切に行われるのか？
- ⑤ 通学方法（通学時間やスクールバスでの送迎等）はどうなるのか？
- ⑥ 統合前の準備にはどのようなものが必要か？
- ⑦ 放課後児童クラブ（学童）はどうなるのか？
- ⑧ 部活動はどうなるのか？
- ⑨ その他

(1) 市民への周知や説明不足

- ・ 保護者や地域の意見をもっと聞いて計画に反映させるべき

- ⇒
- * 地域説明会等の開催
 - * 寒河江市公式YouTubeチャンネルへの説明動画
 - * 幼稚園や保育所等の保護者への説明動画視聴案内
 - * 第2回地域説明会の開催〔10/12～10/26〕
 - * 市議会（3月・6月・9月）での答弁

様々なご意見をいただいておりますので、計画の一部変更も視野に入れながら、時間をかけて検討したいと考えています。

(2) 小・中学校の統廃合と地域の活性化、公共施設の配置の問題

- ・ 学校がなくなると地域が廃れる
- ・ 陵西学区の学校存続

(これまでの説明会等でのご意見)

- ・ 地域から学校がなくなると地域が廃れるから、統合には反対。
- ・ 地域の教育、活性化をどう図り、どう考えていくのか。
- ・ 学校がなくなることではなく地域の核がなくなる。
- ・ 寒河江市全体で地域の子どもを育てていく考え方もある。
- ・ 子どもの数が少なくなったから統合するだけではなく、まちづくりそのものとして考えていかなければならない。
- ・ 学校をなくすのではなく、維持する方向で考えてほしい。

学校は、地域にとって存在意義が大きく、地域の中心的な役割を担ってきた歴史があります。学校がなくなることにより、地域が活性化を失うことはあってはならないと考えており、統合後の校舎の利活用を含めて、市内全体のバランスを考慮して公共施設の配置なども検討していかなければなりません。

(3) 小学校を2段階で統合する場合に小学校と中学校とで統合が続くことによる子どもや保護者の負担増

- ・ 小学6年生と中学2年生で統合を経験することになる

⇒ * 7月の授業参観等を利用した保護者説明会の実施
* 該当小学校（西根小・三泉小・高松小・醍醐小・白岩小）のPTA役員による2回の検討会の実施

(これまでの説明会等でのご意見)

- ・ 小学校の2段階統合は、子ども・親ともに負担が大きい。
- ・ もっと多い人数で切磋琢磨したり、もまれたりしてほしい。
- ・ 統合するなら1回でいい。新しく学校ができてからでいい。
- ・ 統合するなら早いほうがいい。
- ・ 統合の必要性はわかるが、時期を慎重に考えてほしい。
- ・ 陵西学区に学校を残してほしい。
- ・ 統合時のスクールバスや放課後児童クラブが心配。

「複式学級の早期解消」というあり方検討委員会の答申を受け、令和8年度の統合を計画しましたが、令和14年度を目途とした1回の統合案も検討しています。

小学校統合についての検討案

案A：現在の計画

R8

①西根小・三泉小

②高松小・醍醐小・白岩小

R14

新築

①と②の統合小学校

案B：中学校統合後（R14を目途に）

西根小・三泉小・
高松小・醍醐小・白岩小

新築

5校統合小学校

案C：中学校統合後（R14を目途に）

西根小・三泉小

高松小・醍醐小・白岩小

新築

2校統合小学校

醍醐小校舎

3校統合小学校

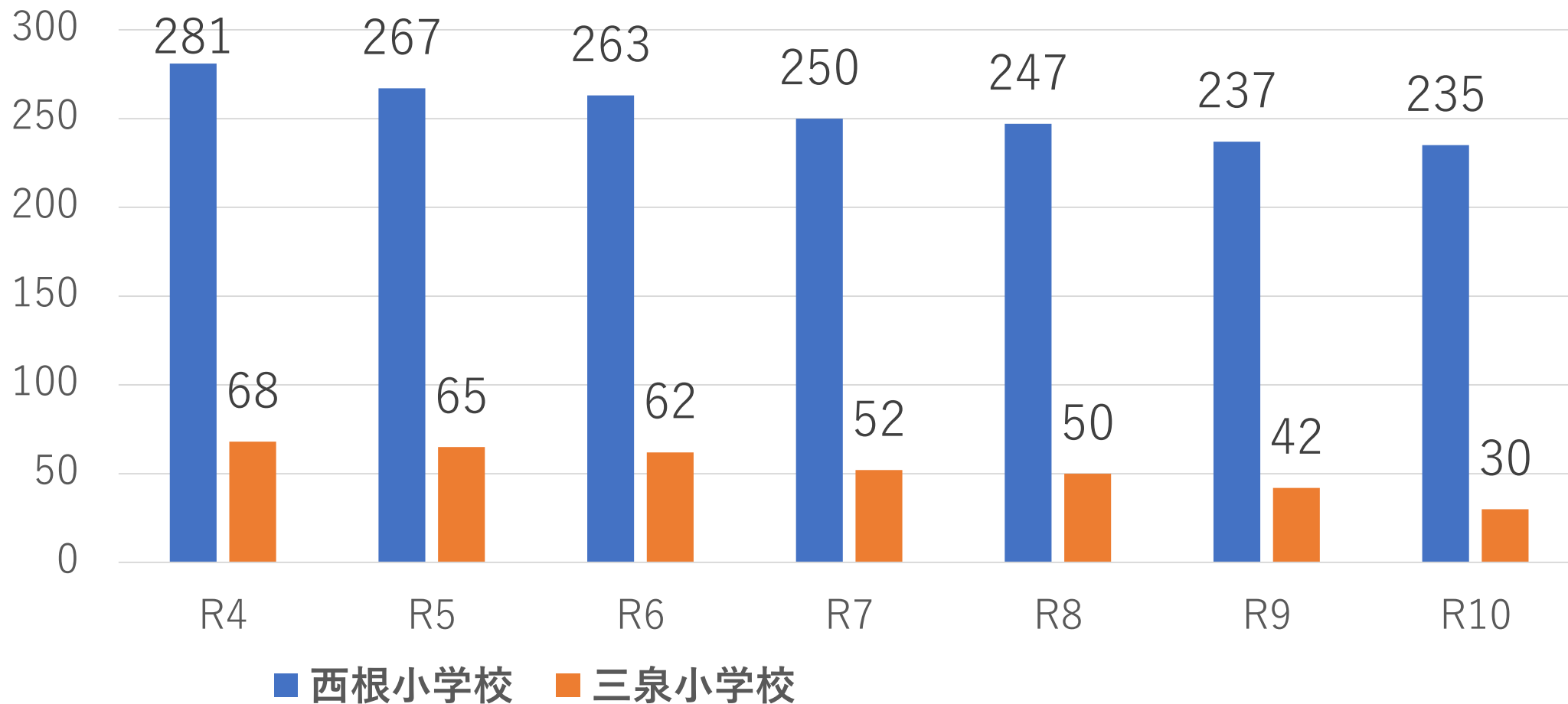
統合時期について

令和4年度現在小学校2年生の児童は、小学校・中学校で統合を経験する。

寒河江市学校施設整備計画(西根小・三泉小／高松小・醍醐小・白岩小) 統合予定一覧〔令和4年8月現在〕

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
統合予定年度⇒					小統合		中統合				小再統合					
R16年度1年生													小1	小2	小3	小4
R15年度1年生												小1	小2	小3	小4	小5
R14年度1年生											小1	小2	小3	小4	小5	小6
R13年度1年生										小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1
R12年度1年生									小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
R11年度1年生								小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R10年度1年生							小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
R9年度1年生						小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3		
R8年度1年生					小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
R7年度1年生				小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3				
R6年度1年生			小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3					
R5年度1年生		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3						
R4年度1年生	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3							
R4年度2年生	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3								
R4年度3年生	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3									
R4年度4年生	小4	小5	小6	中1	中2	中3										

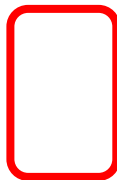
西根小学校・三泉小学校の児童数の推移



出典：令和4年度学区別調査票 寒河江市の年齢別人口調べ

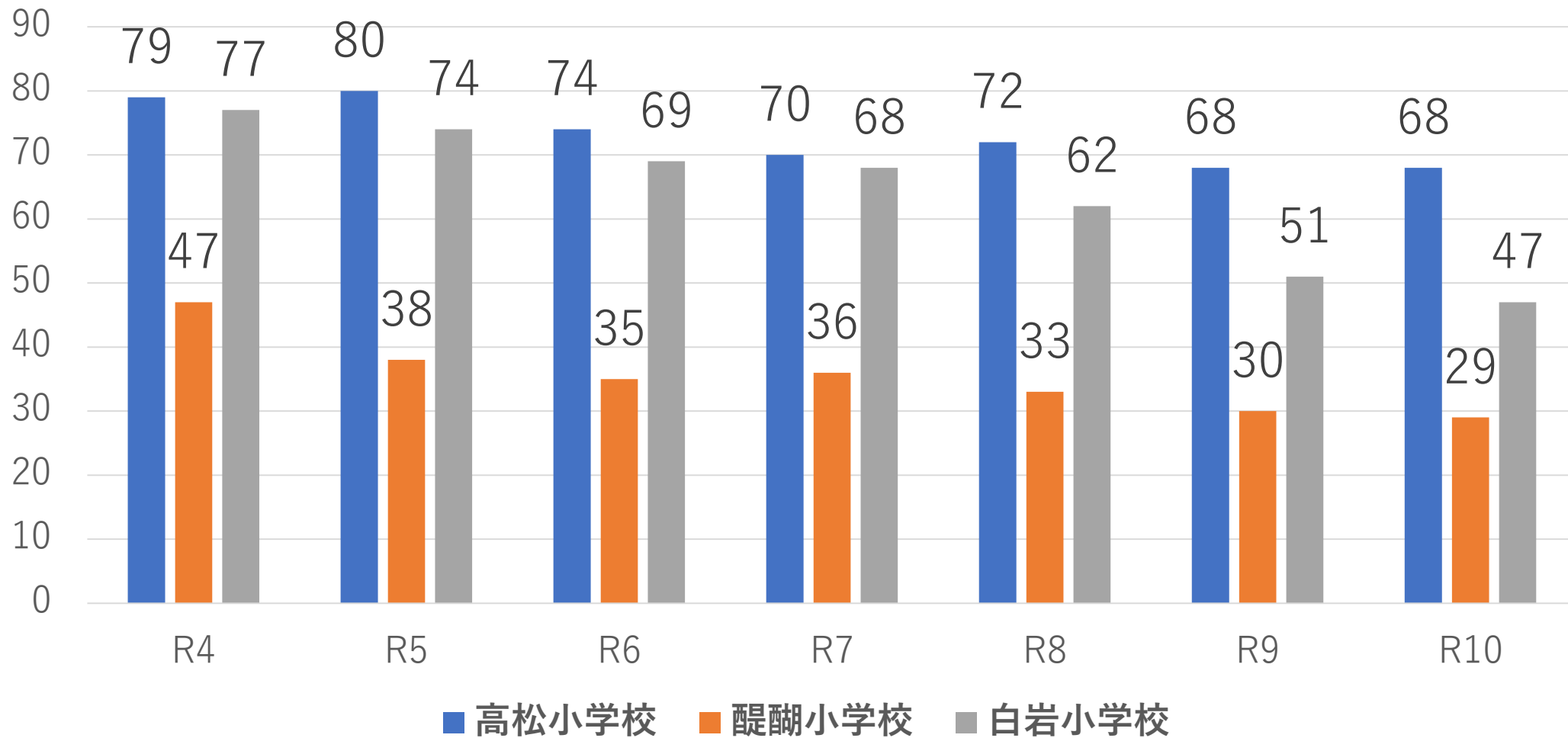
推計手法：令和4年度時点における1～14歳の各歳人口を、令和5年度以降の各歳人口とみなして（転出入や死亡による人口の増減を考慮しない）推計したもの。これより先のスライドには同じ出典元からの数値が使われます。

西根小学校・三泉小学校の学年毎の児童数の推移

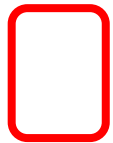
 は、複式学級

		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
西根小学校	1年生	37	47	41	38	39	35	35
	2年生	45	37	47	41	38	39	35
	3年生	42	45	37	47	41	38	39
	4年生	51	42	45	37	47	41	38
	5年生	45	51	42	45	37	47	41
	6年生	61	45	51	42	45	37	47
三泉小学校	1年生	16	4	7	2	9	4	4
	2年生	12	16	4	7	2	9	4
	3年生	11	12	16	4	7	2	9
	4年生	12	11	12	16	4	7	2
	5年生	10	12	11	12	16	4	7
	6年生	7	10	12	11	12	16	4

高松小学校・醍醐小学校・白岩小学校の 児童数の推移



高松小学校・
醍醐小学校・
白岩小学校の
学年毎の
児童数の推移



は、複式学級

		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
高松小学校	1年生	12	15	12	7	14	8	12
	2年生	12	12	15	12	7	14	8
	3年生	12	12	12	15	12	7	14
	4年生	11	12	12	12	15	12	7
	5年生	18	11	12	12	12	15	12
	6年生	14	18	11	12	12	12	15
醍醐小学校	1年生	8	2	7	6	4	3	7
	2年生	6	8	2	7	6	4	3
	3年生	7	6	8	2	7	6	4
	4年生	5	7	6	8	2	7	6
	5年生	10	5	7	6	8	2	7
	6年生	11	10	5	7	6	8	2
白岩小学校	1年生	7	12	10	12	5	5	3
	2年生	16	7	12	10	12	5	5
	3年生	11	16	7	12	10	12	5
	4年生	13	11	16	7	12	10	12
	5年生	15	13	11	16	7	12	10
	6年生	15	15	13	11	16	7	12

(4) 中学校の「1校案」に対して、「2校案」の検討

- ・「1校案」は、生徒数が千人規模で大きすぎる
- ・建設予定地、予算は？

学校施設整備計画で1校案とした理由は、

1. 2校統合によっても、年数を経過するに従い、現在の陵東中と同等の生徒数となり、陵南中との不均衡が生じることが懸念される。統合時の生徒数だけでなく、その10年先、20年先の生徒数の減少を見据えたため。
2. 教育資源や財源を1つに集中し、より効率的かつ、より優良な教育環境を構築していくため。

- ⇒ * 市内3中学校のPTA役員による検討会の実施
* 教育委員会だけでなく関係各課と協議

(これまでの説明会等でのご意見)

- ・ 1校で、資源を集中し、最新の教育環境の下で学ばせたいので賛成。
- ・ 1校にして、他市町からも人が来るような、すごくいい学校を作ってほしい。
- ・ 1校案の大きな学校だといろいろな人との出会いが期待でき、成長できる。
- ・ 1校案だと、部活動の数が増え、選択肢が増えるので賛成。
- ・ 2校案は財政面で大変。その負担が将来を担う子どもたちになるのは不安。
- ・ 1校だと、子どもたちに目が行き届かなくなるので、いじめや不登校が多くなりそうなので2校のほうがいい。
- ・ 1校案では、行事などする時に、人が多くて大変ではないか。
- ・ 1校案では、1000人規模の学校にする必要性がわからないので反対。
- ・ スクールバスがあっても、冬場は渋滞の原因になるので1校案には反対。
- ・ 2校案だと、様々な活動や部活動等で、競い合い、向上心を促すことができるので賛成。
- ・ 中学校を1校にすると西村山地域の中学校と格差が広がる気がするので反対。
- ・ 中学校3年時の統合は、修学旅行や受験があり不安を感じる。

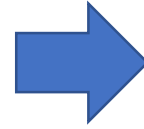
子どもたちにとって最適な学習環境、今後の児童・生徒数の推移、財政上の課題、市全体のまちづくりの問題等を総合的に考慮し、学校の配置や中学校のあり方及び公共施設の配置等について検討しています。

中学校統合についての検討案

案A：現在の計画

R10

陵東中・陵南中・陵西中

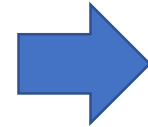


新築

3校統合中学校

案B：R10を目途に

陵東中・陵南中・陵西中



新築

3校統合中学校



まちづくりと連動した
他の公共施設

案C：R10を目途に（改築時期については検討が必要）

陵東中・陵西中



改築

2校統合中学校

陵南中



改築

陵南中学校

中学校を1校に統合した場合

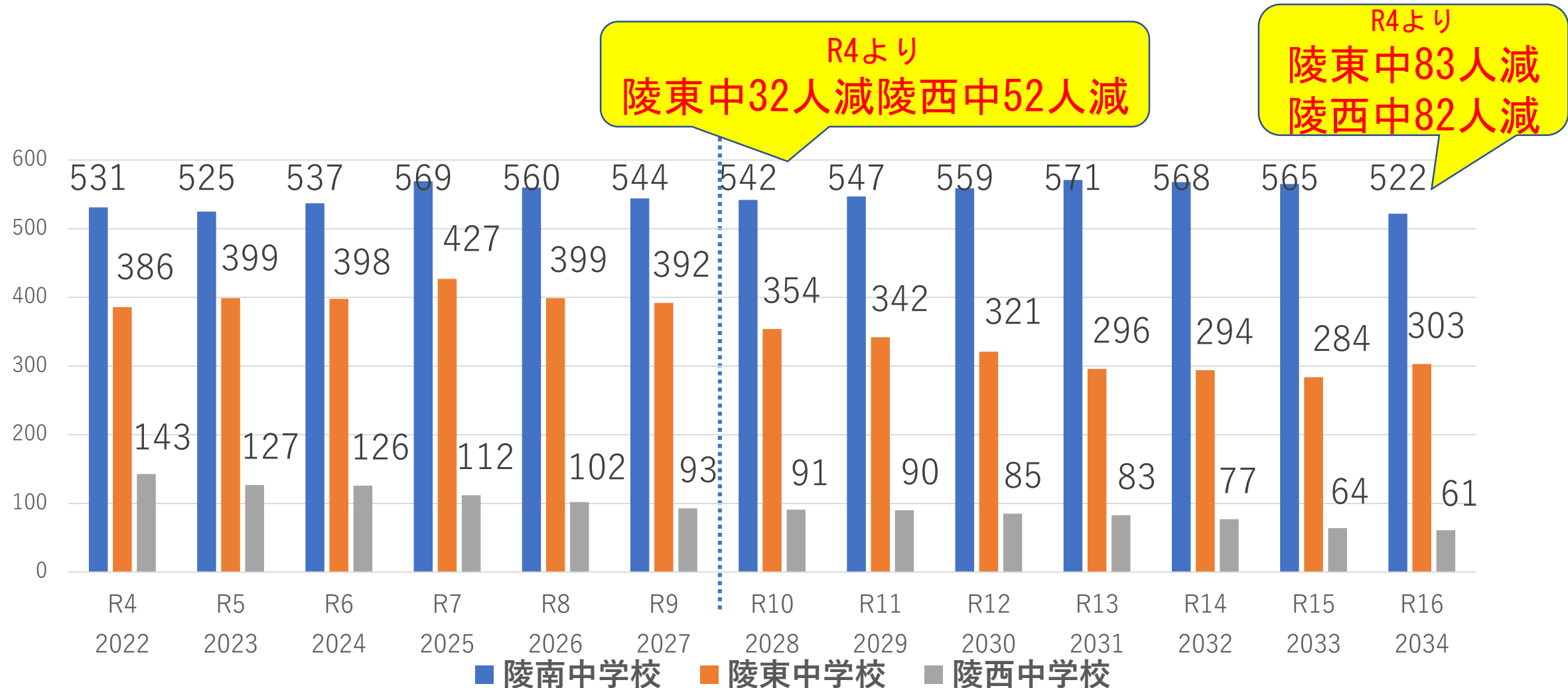
- メリット
- 施設・設備への財政支出を集中化することで、市内全生徒に均質で統一した学校環境を提供できる。
 - 地元の寒河江高校と寒河江工業高校とのつながりを深め、進学やキャリア教育などの連携強化に取り組みやすい。
 - 部活動の選択肢が増え、ニーズに応じた活動が可能になりやすい。
 - まちづくりの観点と連動しながら、集中投資をし、他の公共施設と学校とが一体化した複合施設の建設を検討することができる。
 - 各教科の専門教員が増え、各教科の研修の機会が増える。教員の専門性が磨かれ、学力の向上につながると考えられる。
- デメリット
- 生徒の人数が増え、生徒間の人間関係が希薄化する場合がある。
 - 学校行事等において、係や役割分担のない生徒もできる場合があるなど、一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある。
 - 通学距離が長くなったり、スクールバスの利用が必要となる生徒が増える。特に冬期間の通学について心配される。

中学校を2校に統合した場合

- メリット
- 統合後は各学年4～5学級で生徒間の人間関係も作りやすい。
 - 統合後の生徒数が、現在と同程度または、少し増加するので、統合前と比べ、変化が少ない学校生活を送ることができる生徒が多く、心理的な負担が軽減される。
 - 多くの生徒が徒歩ないし、自転車^①で通学することができる。
 - スクールバスの運用にあたり、バスの台数が少なく^②て済む。
 - 市内に2つの中学校があることで競争心が醸し出される。
 - 2校にすることで、災害時にリスクを分散^③することができる。
- デメリット
- 1度に2校の改築は財政面での負担が大きい。
 - 2校間（陵南中と陵東中+陵西中）での生徒数の格差が大きくなり、20年を待たずに再統合を検討^④する可能性も見込まれる。
 - 生徒数の減少により、教科によっては専門の教員の数^⑤が十分とは言えなくなる場合が考えられる。

※ 1学級の人数は、大規模校も中規模校も差はありません。〔33人学級〕 23

3中学区の生徒数の推移



R4より
陵東中32人減 陵西中52人減

R4より
陵東中83人減
陵西中82人減

※令和4年4月4日現在の児童数及び令和4年7月4日現在「学区別調査票」による

統合中学校の生徒数の推移

900人をきる

		R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
1校案	3校統合校	987	979	965	950	939	913	886	
2校案	A校(陵南中)	542	547	559	571	568	565	522	
	B校 (陵東中+陵西中)	445	432	406	379	371	348	364	

※R4年度（R17年度に中学1年生）の出生届け出数は、4月から9月まで129名で前年比－54名

R10より
81人減

R10 中学校の生徒数・教職員数の見込み

	生徒数	学級数	教職員数 見込み
3校統合校	987	35 通常30+特支5	60 担任外25
陵南中学校	542	20 通常18+特支2	39 担任外19
陵東中+陵西中	445	17 通常15+特支2	31 担任外14

現在の中学校の敷地面積と生徒数等

	敷地面積	生徒数(最大)	生徒数(現在)
陵東中	30,653m ²	643人(S43)	386人
陵南中	42,159m ²	885人(S51)	531人
陵西中	28,871m ²	437人(S52)	143人
参考・河北中	51,762m ²	963人(H4)	444人
参考・高畠中	73,929m ²	679人(H28)	624人

* 高畠中の敷地面積は防災拠点施設含む

統合中学校の建設予定地について

* 建設予定地について、計画では令和4年度中に用地選定を行う予定でしたが、様々なご意見も出されていることから現在検討中であり、必ずしも本年度中に決まらないこともあり得る状況です。

統合中学校の建設について

* 計画では、市内3中学校を統合し、新中学校を建設（1校案）し、その後、陵東中の跡地に統合小学校を建設する予定ですが、様々なご意見があることから現在検討中です。なお、学校と他の公共施設との複合化も選択肢の一つとして検討しています。

2校案の場合は、陵南中（現在49年目）の改築と陵東中（現在53年目）と陵西中（現在47年目）の統合中学校の改築（陵東中跡地）が必要となります。その場合、新たに統合小学校の用地確保が必要となる見込みです。

参考資料〔高畠町立高畠中・平成28年開校〕

	開校時生徒数	建設費 (グランド等含む)	用地取得費	合計
高畠中	679人(24学級・H28)	48.8億円	1.76億円	50.56億円

説明会等でいただいたご意見・ご心配な点等について

①どんな子どもたちを育てたいのか。

ア. 令和3年1月中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」答申より

学校教育で育むべき資質・能力について

「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」とする。

イ. 第2次寒河江市教育振興計画基本目標

ふるさとを愛し、

寒河江から夢のある未来を切り拓く人づくり

～共に学ぶ ともに育む～

ふるさと寒河江を愛する心を持ち、

様々な変化も予想される社会の中で、

夢のある未来を切り拓いていくたくましい人

共に学び、共に育みあえる社会を作り上げられるように。

ウ. 現在の取り組み

[グローバル化に対応した教育]

- ALT（5名）、AET（1名）

小学校3・4年生 外国語活動 小学校5・6年生 外国語の学習支援
中学校 英語の学習支援

- 日本語指導支援員1名 ー外国からの編入児童生徒への日本語の支援
- GTECの活用（読む、聞く、話す、書くの4技能をスコア型試験）
- English Day 終日英語だけで過ごす取り組み

[ICTに係る取組み等]

令和2年度 1人1台タブレット導入（家庭学習にも活用）

電子黒板、大型モニター等導入（R5年度で普通教室に1台設置）

令和3年度 さくら連絡網導入 欠席等の連絡、健康チェック

今後想定される学習環境

01 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

多様な学習活動を展開できる学習空間



教室空間において、紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていく姿

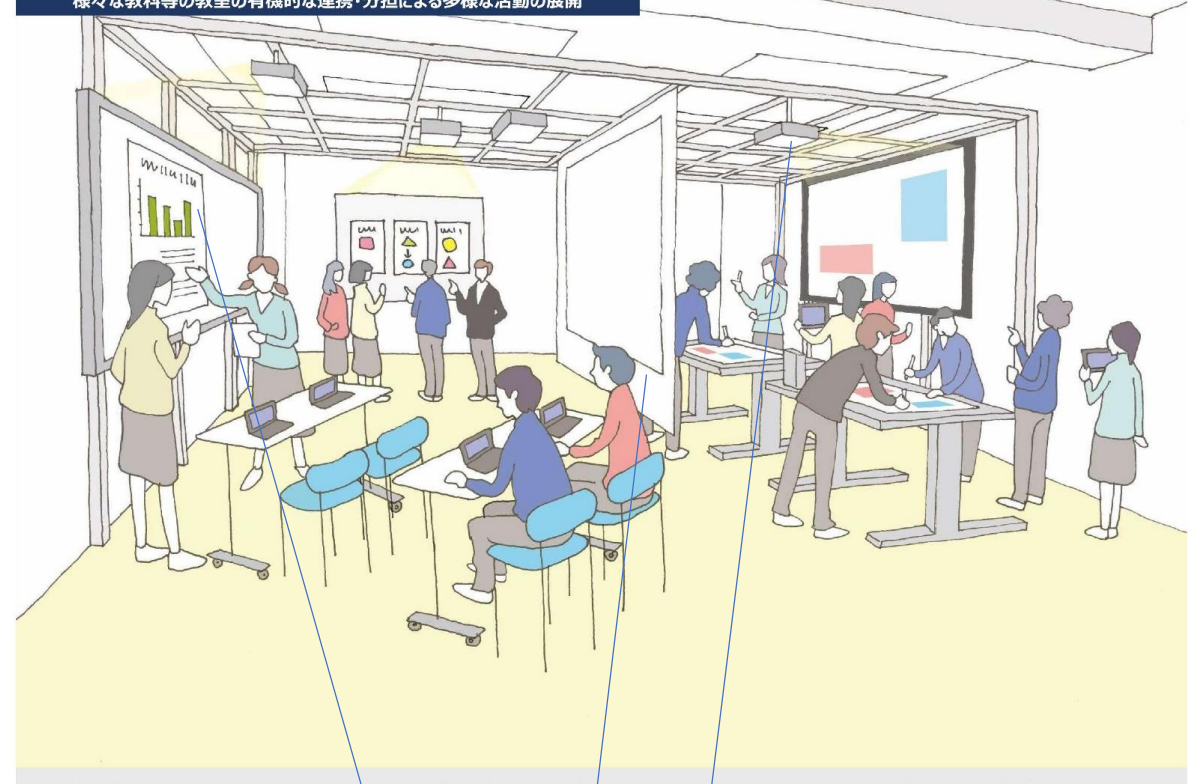
46

複数の大型スクリーン
児童の手にはタブレット

出典：文部科学省
「新しい時代の学びを実現する学校施設
のあり方について」最終報告より

04 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

様々な教科等の教室の有機的な連携・分担による多様な活動の展開



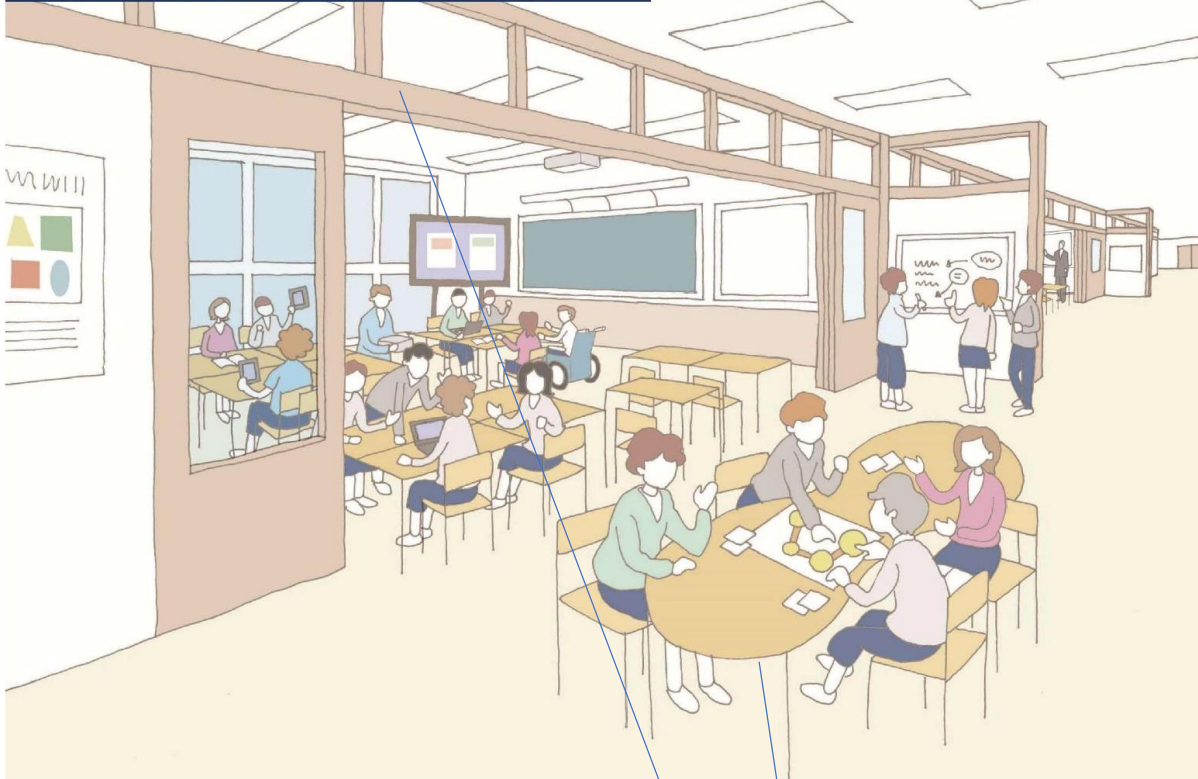
単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

移動式の仕切り
壁面のスクリーンと
複数のプロジェクター

今後想定される学習環境

02 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

多様な学習活動を展開できる学習空間



教室空間と隣接する多目的スペースとの連続性・一体性を確保し多様な学習活動へ柔軟に対応していく姿

教室の仕切りは移動式
教室の外でも学習

06 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

様々な教科等の教室の有機的な連携・分担による多様な活動の展開



学校施設全体を学びの場として捉え、階段状の空間を、ステージやプロジェクタ等を備えた発表・表現の場としていく姿

階段状のスペースで発表会
プロジェクタも設置

②いじめへの対応について

寒河江市は、「いじめ防止対策推進法・第12条」に基づき、国及び県の基本方針を踏まえ、寒河江市いじめ防止基本方針を策定しています。

寒河江市いじめ防止基本方針の目的

子どもの尊厳を保持するため、いじめ防止、早期発見、いじめへの対処などに関する本市の基本方針を策定し、いじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進することで、市全体としていじめ問題に取り組むことを目的とします。

各小・中学校でも、いじめ防止基本方針を設定しています。

現在の取り組み

- いじめアンケート調査による実態把握。年2回実施。
- 積極的ないじめの認知。
- 解消率を高める。
- 教員同士の情報交換で気になる児童・生徒の情報を共有する。
- 警察の担当の方を講師に招き、ネットやオンラインゲーム、SNSの使い方について話を聞く。
- ICTリテラシーが高い児童・生徒を育てる。

今後の取り組み

- 様々なストレスが子どもたちの行動に繋がっていることを認識し、子どもたちのストレスの軽減に努める。
- 校舎のつくりを工夫し、死角が少なく、くつろげるスペースがあるような、ストレスがかかりにくい、ゆとりのある校舎を目指す。

②不登校の対応について

〔現在の取り組み〕

- 不登校予防担当者会 年2回
- 不登校予防研修会 年6回

(対象は低学年担任。不登校は年々、低年齢化している。)

- 子どもふれあいサポーターの配置 寒河江市1名 外部との連絡調整
- 寒陵スクール 教育相談員3名 訪問支援員2名 年間600件の相談に対応
- スクールカウンセラー 各中学校に1～2名
- 学力向上支援員 各小・中学校に1名(12名)

③複式学級について

複式学級は、2つ以上の学年を合わせて16人以下の場合に複式学級となり、1つの学級で2学年以上が入って編制する学級のことです。

メリット ・ 一人一人の学習状況などを**的確に把握**し、きめ細やかな指導が行いやすい。

・ 様々な活動で、一人一人が**リーダーを務める機会**が多くなる。

・ **児童生徒が相互に学び合う**活動を充実させることができる。

デメリット ・ **切磋琢磨する機会**が少ない。授業に制約ができる。

（集団的な活動の制限。体育では、球技などがしづらい。）

・ **人間関係が固定化**される。（トラブル時に回避しにくい。）

・ 教員の授業準備のための**負担が大きい**。

（1時間に2学年分の授業の実施）

④特別支援学級について

特別支援学級とは、

知的学級、自閉・情緒学級、肢体不自由学級、病弱学級 等

現在の取り組み

児童・生徒の実態に応じて、授業を組み、交流学級での学習も大切にする。（インクルーシブ教育の観点）

例：主に、特別支援学級で学習し、教科によっては、交流学級で学習をする。

今後の取り組み

専門性の高い教員の配置

特別支援の免許を持ち、経験や専門的知識の高い教員を配置し、個に応じた指導の充実を図る。

特別教育支援員の配置

特別支援学級に在籍の児童・生徒に対して個別の配慮が、より一層できるようにする。

⑤通学方法について

通学距離は、小学校は概ね4km以内、中学校は概ね6km以内であることが適正とされている。

(※義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令)

寒河江市では、児童生徒が安全安心に登下校できるようにスクールバスの運用についても検討している。

小学校が統合され通学する学校が変わる場合は、スクールバスの運用を検討する。また、中学校では、下校時間には、2回に分けて運行することも検討する。

例：陵西中では、部活が終わった3年生と部活を行う1・2年生とでは、下校のバス時間を変えて運用している。

⑥統合前の準備について

統合は、児童生徒にとってストレスが予想される事業である。できる限り**ストレスの軽減**に努める。

統合前の準備として、**交流計画**を立てる。

- 統合前、数年をかけて、交流を図る。
- 実際の交流（レクリエーション・授業・遠足を合わせる等）、リモートでの交流、互いの地域の特色を知ること大切にする。

統合前の交流について

統合後の学校生活をよりリアルにイメージできるように。

白岩小学校と幸生小学校の交流の事例より

1学期：宿泊体験学習も合同で参加（5年生）

2学期：3日間連続しての学校生活

3学期：1週間連続しての学校生活

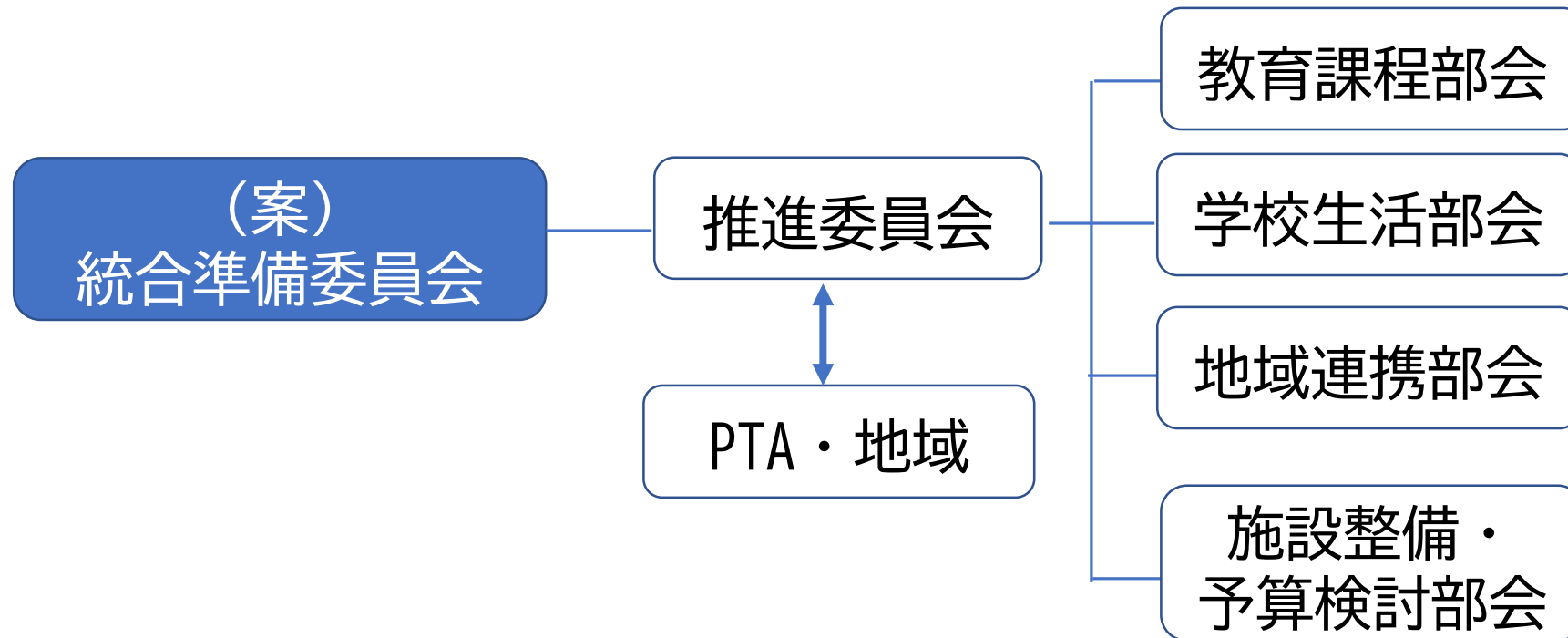
朝の登校から、授業・給食・休み時間・下校

統合先のプログラムに沿って行う。

統合する学校同士の連携・協力体制が重要となる。

統合準備委員会の設置について

統合の際は、統合する学校の様々なことをすり合わせる。統合準備委員会を立ち上げて、それぞれ担当に分かれて検討をする。



教育課程部会

【校長・教頭・教務主任
各教科主任・養護教諭】

- 日課表・週時程の検討
- 各教科年間指導計画作成
- 各種年間指導計画の作成
- 年間行事予定表の作成
- 事前交流学习・学校行事等の検討
- 修学旅行・学年行事の調整
- 学級編成方法の検討
- 指導要録整理

【研究部】

- 学校研究の検討

【学習指導】

- 学習評価方法の検討
- 通知表・成績一覧表の検討
- 教材の購入計画
- 総合的な学習の時間の検討
- 特別活動年間計画
- タブレットPC整理
- 教育マイスター
- 学力向上
- 道徳教育計画
- 外国語・外国語教育

【学芸指導】

- 文化祭の検討
- クラブ活動の選定
- 学校文集
- 安全指導

【体育指導】

- 体育指導
運動会、水泳、持久走
- 保健指導計画
○食育指導計画

【その他】

- 伝統芸能
- 特殊な取り組み

(案) 統合準備委員会

寒河江市・
寒河江市教育委員会

- 例規の整備
- 校名の検討
- スクールバスの運行
- 施設設備の充実・予算化
人事的配慮

推進委員会

【3校：校長・教頭・教務主任・学校事務職員】

- 各種協議基本方針の策定
- 各部会協議事項の調整
- 日程調整
- 学校経営要覧作成の観点での担当の割り振り

保護者（PTA）
地域・関係機関

学校生活部会

【校長・教頭・養護教諭
生徒指導主事・児童会担当】

- 学校生活のやくそく
- 専門委員会の組織調整
・運営委員会
・教育課程検討委員会
・特別支援教育委員会
・教育相談
・いじめ防止対策委員会
- 児童会編成の検討
- 委員会の選定
- 通学班の検討
- 縦割り班の検討
- 保健室経営の検討
- 登下校・自転車指導
- 小中連携
- 新型コロナウイルス感染防止対策
- いじめ防止基本方針の検討
- 学校医の決定

学校運営部会

【校長・教頭】

- 学校教育目標の検討
- 学校経営方針の策定
- 学校運営組織校務分掌の検討
- 閉校式・記念誌の作成準備
- 校歌・校章の検討
- 体操着の検討
- 学級担任の検討
- 特色ある教育活動の調整
- 幼保小中連携
- 教室配置の検討
- 危機管理マニュアル作成
- 避難経路作成
- 人事関係要望
- 職員慶弔規定の見直し
- 沿革史の扱い
- 特別支援学級の設置

施設整備・予算案部会

【校長・教頭・学校事務職員・
図書主任・図書司書】

- 統合後の学校予算編成
- 備品の確認と整理再利用
- 備品等の輸送計画
- 耐火書庫の書類確認
- 各種集金事務の確認
- 各種通帳の整理
- 使用教室の整理
- 机・椅子の確認
- 図書整理
- 入学時購入品の確認
- 掲額の整理
- 歴代校長・PTA会長
- 修学旅行

地域連携部会

【校長・教頭・学校事務職員
PTA本部役員】

- PTA活動の調整
・規約（組織）の見直し
・役員選出方法の検討
・各種委員会の選定
活動内容の検討
・会費の設定
・慶弔規定の作成
- 連携事業の調整
- 学校施設利用（学校開放）の調整
- 緊急メール配信先の整理
- 学校運営協議会準備委員の編成
- スポ少の整理
- 伝統芸能
- 地域の特殊な取り組み

関係小学校全教職員（職員会議・全体会）

⑦放課後児童クラブについて

現在の放課後児童クラブは、

- 学校内に設置されている。
- 学区内に設置されている。

担当は、子育て推進課となっている。

今後、「子ども・子育て支援推進会議」を開催して、放課後児童クラブや保育所について広く検討する。

「学校が統合しても学童は残してほしい。」などのご意見やご要望等は伝えている。

⑧中学校の部活動について

国や県の部活動改革の方向性

- 土日の部活動を段階的に地域移行していく。
令和5～7年度の3年間をめどとする。
- 平日の部活動の地域移行はできるところから取り組む。
- 地域におけるスポーツ・文化活動機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等にも着実に取り組む。
- 地域の団体等と学校との連携協働の推進をする。

生徒にとって望ましい

持続可能な部活動と**学校の働き方改革**の
両立を実現する。

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要



※公立中学校等における運動部活動を対象

運動部活動の意義と課題

意義

- 生徒のスポーツに親しむ機会を確保。自主的・主体的な参加による活動を通じ、責任感・連帯感を涵養、自主性の育成にも寄与。
- 人間関係の構築、自己肯定感の向上、問題行動の抑制。信頼感・一体感の醸成。

課題

- 近年、特に**持続可能性**という面で**厳しさを増しており**、中学校生徒数の減少が加速化するなど**深刻な少子化が進行**。〈生徒数：昭和61年589万人→令和3年296万人に半減、出生数：令和3年84万人〉
- 競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も含めた運動部活動の指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担**。〈土日の部活動指導：平成18年度1時間6分→平成28年度2時間9分に倍増〉
- 地域では、**スポーツ団体や指導者等と学校との連携・協働が十分ではない**。

これまでの対応

- 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（平成30年3月）：学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を進める
- 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（令和2年9月）：令和5年度以降、**休日の部活動の段階的な地域移行**を図る
- 中教審や国会等：「部活動を学校単位から**地域単位の取組とする**」旨指摘

目指す

- 少子化の中でも、**将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保**。このことは、学校の働き方改革を推進し、**学校教育の質も向上**。
- スポーツは、**自発的な参画**を通して「**楽しさ**」「**喜び**」を感じることに本質。**自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出**。
- 地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保**。（スポーツ団体等の組織化、指導者や施設の確保、複数種目等の活動も提供）

改革の方向性

- まずは、**休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする**
- 目標時期：令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途**
（合意形成や条件整備等のため更に時間を要する場合にも、地域の実情等に応じ可能な限り早期の実現を目指す）
- 平日の運動部活動の地域移行は、できるところから取り組むことが考えられ、地域の実情に応じた**休日の地域移行の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進**
- 地域におけるスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等**にも着実に取り組む
- 地域のスポーツ団体等と学校との連携・協働の推進**
※改革を推進するための「**選択肢**」を示し、「**複数の道筋**」があることや、「**多様な方法**」があることを強く意識



課題への対応

- | | | | |
|------------------|---|----------------|---|
| 新たなスポーツ環境 | ・地域の実情に応じ、多様なスポーツ団体等が実施主体
・特定種目だけでなく、生徒の状況に適した機会を確保 | 大会 | ・大会主催者に対し、地域のスポーツ団体等の参加も認めるよう要請
・地域のスポーツ団体等も参加できる大会に対して支援 |
| スポーツ団体等 | ・先進的に取り組んでいる事例をまとめ提供
・必要な予算の確保やtoto助成を含む多様な財源確保の検討 | 会費や保険 | ・困窮する家庭へのスポーツに係る費用の支援方策の検討
・スポーツ安全保険が、災害共済給付と同程度の補償となるよう要請 |
| スポーツ指導者 | ・指導者資格の取得や研修の実施の促進
・部活動指導員の活用、教師等の兼職兼業、人材バンク
・指導者の確保のための支援方策の検討 | 学習指導要領等 | ・部活動の課題や留意事項等について通知、学習指導要領解説の見直し、次期改訂時の見直しに向けた検討
・部活動等から伺える個性や意欲・能力を入試全体を通じ多面的に評価
・教師の採用で部活動指導の能力等を過度に評価していれば、見直す |
| スポーツ施設 | ・学校体育施設活用に係る協議会の設置、ルールの策定
・スポーツ団体等に管理を委託 | | |

※国立の中学校等でも、学校等の実情に応じて積極的に取り組むことが望ましい。
 ※公立及び国立の高等学校等については、義務教育を修了し進路選択した高校生等が自らの意思で選択している実態等があるが、各学校の実情に応じて改善に取り組むことが望ましい。
 ※私立学校でも、学校等の実情に応じて適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

部活動改革のイメージ

山形県教育庁
スポーツ保健課
令和4年3月

◆ 生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築 ◆ 教員の働き方改革の推進

県教育委員会では、山形県の運動部活動改革による「生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築」と「教員の働き方改革の推進」の両立を目指し、改革の一環として「休日の部活動の段階的な地域移行」及び「合同部活動の推進」に関する実践研究に取り組んでおります。

部活動については、その教育的意義を踏まえながら、多様な生徒のニーズに応えるため、今後も学校教育活動の一環として継続していくものです。並行して、持続可能な運営体制を整えるため、休日は、部活動の枠にとらわれず、生徒が自由にスポーツ活動の場を選択できる環境を整備してまいります。この取り組みにより、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の推進を図ってまいります。

◆部活動の現状と課題

- 1 「山形県における運動部活動の在り方に関する方針」策定（H30.12）
- 2 運動部活動における課題（R3年度山形県運動部活動実態調査より）
 - ①少子化に伴う部員数・部活動数の減少
 - ②専門的な指導者（顧問）の不足
 - ③多くの教員にとって部活動が負担



◆課題解決のための取組み

＜山形県及び市町村の取組み＞

- 1 部活動方針の遵守の徹底
- 2 顧問教員に代わって部活動の指導や引率が可能な「部活動指導員」の配置
 - ・R4年度
公立中学校94校に106人配置
県立高等学校7校に7人配置
- 3 実践研究の実施（中学校）
 - ・休日の部活動の段階的な地域移行
 - ・合同部活動の推進
- 4 部活動の適正数や体制整備等の部活動の在り方に関する改革（中・高）
- 5 地域スポーツ環境の整備
- 6 大会の在り方に関する検討

＜国の取組み＞

- 1 休日の部活動の段階的な地域移行
- 2 合同部活動の推進

◆目指す方向性

生徒が自由に地域スポーツ活動の場を選択できる

環境整備の研究を進めていきます。

※休日は、**地域のスポーツ活動(学校管理下外)**として活動します。

高校については、中学校の部活動改革と同様の考え方のもと、可能なところから進められるよう研究していきます。但し、部活動が学校の特色ある活動として位置づけられている場合があることに留意し、各競技団体等との連携を図るなど、部活動の在り方について研究を進めていきます。

- 1 平日は部活動方針を遵守しながら実施

平日は学校の部活動
(任意加入)



- 2 休日は段階的に地域スポーツ活動へ移行

※休日に活動を希望する生徒は、地域スポーツ活動(学校管理下外)として地域スポーツクラブ等に加入し活動します(任意加入)

【地域スポーツクラブ等の例】

総合型地域スポーツクラブ

単一種目のスポーツクラブ
(競技団体登録しているクラブや道場等)

スポーツ少年団

企業が運営するスポーツクラブ

(など)

- 3 合理的で効率的な部活動の推進

複数校合同部活動の
在り方研究

※地域の実情を踏まえ、合同部活動によるスポーツ活動機会の充実を目指します。

※学校間の調整が重要

＜問合せ先＞
教育庁スポーツ保健課
TEL023-630-2562



地域部活動に関する情報は
こちら👉



外部指導者・部活動指導員をお
探しの方はこちら👉



⑧中学校の部活動について

- 今後の部活動については、「寒河江市立中学校部活動の地域移行に関する検討会議」で検討を始めている。
 - 中学校の部活動は任意加入に向けて動き始める。
 - 平日の活動は、学校での部活動を継続する。
 - 土日は部活から、地域でのクラブの活動等へ移行していく。令和5～7年までの間に。
 - 土日のクラブの活動等への参加には、経費（受益者負担）が発生する。
 - 土日の活動は、学区を越えて参加となる場合もある。
- ※様々な課題があり、課題を整理中です。

令和4年度寒河江市内中学校の部活動の状況について

	部活動名	陵東中学校	陵南中学校	陵西中学校
1	野球部	34	12	19
2	ソフトボール部	18	24	16
3	男子バスケットボール部	21	38	23
4	女子バスケットボール部	15	27	18
5	男子バレーボール部	24	19	15
6	女子バレーボール部	25	24	17
7	男子卓球部	23	28	14
8	女子卓球部	19	27	6
9	男子ソフトテニス部	19	23	
10	女子ソフトテニス部	28	35	
11	剣道部	17	16	
12	柔道部	19	19	
13	水泳部	10	26	
14	アスリート部	44		
15	新体操		21	
16	陸上		33	
17	サッカー		20	
18	吹奏楽部	47	36	14
19	総合文化部	22		
20	科学部		10	
21	パソコン		30	
22	創作部		14	
23	美術部		31	

部活動指導員
各中学校
1名ずつ配置

説明会の日程について

- | | | | |
|-----------|------------------|--------|-------|
| 10/12 (水) | 西部地区公民館 | 研修室 | 19:30 |
| 10/15 (土) | 西部地区公民館 | 大会議室 | 10:00 |
| 10/15 (土) | 寒河江小学校 | 体育館 | 15:00 |
| 10/17 (月) | ハートフルセンター | 多目的ホール | 19:30 |
| 10/19 (水) | 文化センター | 2階ホール | 19:30 |
| 10/23 (日) | 南部小学校 | 体育館 | 10:00 |
| 10/23 (日) | この木交流センター | 会議室 | 15:00 |
| | (柴橋地区コミュニティセンター) | | |
| 10/26 (水) | この木交流センター | 会議室 | 19:30 |
| | (柴橋地区コミュニティセンター) | | |

これまでの説明会の質疑応答や保護者のみなさまより頂戴したご意見等については、市ホームページで公開しております。

トップページ→暮らし・手続き→教育→施設



ご意見・ご質問について

ご意見ご質問をお持ちの方は、下記QRコードより
お寄せください。

締切：令和4年10月31日



回答は、市ホームページにて公開予定です。

メモ